

Hondaの交通安全情報紙



Since 1971



Safety for Everyone

Hondaはすべての人の交通安全を願い活動しています。

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内 〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1 TEL 03(5412)1736 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

●編集人：吉田宏樹

※年間購読をご希望の方は、下記までお問合わせください。(株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係 TEL 03(5439)1191 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp



SJホームページは

CONTENTS

- 特集：小学生・中学生・高校生への自転車教育 学校と地域による教育の継続が児童・生徒の安全意識を高める……①
TOPICS①/山梨県立甲府昭和高等学校……④
TOPICS②/白バイ合同訓練会……④
TOPICS③/親子交通安全教室……④
現場訪問/総合警備保障(株)(ALSOK)……⑤
NEWS REVIEW①/(一社)日本自動車工業会……⑤
NEWS REVIEW②/第47回二輪車安全運転全国大会……⑤
STREAM/全国に広がるHondaの高校生交通安全教育活動 第7回……⑥
危険予測トレーニング(KYT)/歩行者を追い越そうとしている時(自転車編)……⑦
指導者ファイル/東京都八王子市の交通安全教育指導員の皆さん……⑦
SJクイズ……⑦
SAFETY FOCUS/福岡県北九州市……⑧

特集：小学生・中学生・高校生への自転車教育
学校と地域による教育の継続が児童・生徒の安全意識を高める



自転車事故は全交通事故件数の約2割を占めている(平成25年)。また、自転車乗用中の交通事故死傷者を年齢層別にみると、15歳以下の子どもと16~19歳の若者で3割以上となっている。自転車事故を低減するためには、こうした年齢層への交通安全教育の充実が必要である。今回は、学校と地域による小学生・中学生・高校生への自転車教育の事例を紹介する。



鈴鹿市立明生小学校での「あやとりい、自転車教室」。Hondaを定年退職した有志で構成される「あやとりい同好会」が中心となって児童を指導

ホンダが三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム「あやとりい」には、幼児から小学校高学年までの自転車教育に対応した「あやとりい、自



スタート地点では必ず右後方を確認して発進

2時限目が始まる午前9時40分に3・4年生が校庭に集合。まず、同好会の山田さんが「これから皆さんに自転車で校庭に設けたコースを走ってもらいます。その時に2つのことを意識して練習してください。1つ目は、止まる時は必ず左足を着地させること。クルマは右後方から近づいてきます。右足で着地するとクルマが来る側に転倒する危険がある



停止する時は両手でブレーキをかけ、左足で着地

児童たちは自分のヘルメットをかぶり、自転車を押してスタート地点に並び、スタート地点を担当する同好会の坂さんが「自転車に乗車する時は左側から乗ってください。その時は両手でブレーキレバーをしっかり握り、右後方を観てからサドルにまたがりましょう。左足を地面につけて、右足でペダルをこぎ出して発進できるように構えます」と、一人ひとりの乗車の手順をチェックしていく。児童は発進する前にも右後方を確認してスタート。直線コースの先にある白線の手前で、ブレーキをかけて止まる。ここでは、両手でしっかりブレーキをかけ、左

学校と地域が一体となった小学生への指導

7月8日、鈴鹿市立明生小学校で小学3~6年生の児童約190名を対象に、自転車教室が行われた。指導にあたるのは鈴鹿市生活安全部地域課副参事の川上博樹さん、同市交通安全教育指導員の森友里さん、有竹幸子さん、Hondaを定年退職した有志で構成される「あやとりい同好会(以下、同好会)」の坂川一さん、山田晴一さん、川田吉昭さん、水谷政雄さん、小森邦雄さん、本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及ブロックのインストラクターである。



常に走行スペースの左側端を走ることを意識してもらう

※1 あやとりい=Hondaが三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。幼児~小学校低学年対象の「あやとりい ひよこ編」、小学3~4年生対象の「あやとりい」、幼児~小学校高学年対象の「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者対象の「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしく とときあかし りかいして いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/

### 児童の気づきを促す 適切な指導を行う

明生小学校の浅野瑞代校長は「当校では、私が赴任する前の昨年まで実技による自転車教育は一時中断していたようです。以前勤務していた小学校では毎年実施していましたし、当校の周辺はクルマの往来も多い

足で着地するように同好会のメンバーが児童に声をかける。次に、見通しの悪い交差点に向かう。先ほどと同じように停止線を示す白線の手前で停止。その後、左右が見通せる位置まで自転車を進め、左右と右後方の安全を確認して交差点を通過する。自転車の前輪をあまり出さずに、身を乗り出すようにして確認するように同好会のメンバーや交通教育指導員がアドバイス。そして、顔を左右に向けるだけでなく、しっかりと交差する道路の先にあるものを観るよう



見通しの悪い交差点では停止線の手前で停止後、左右が見通せる位置まで自転車を進め、自転車のブレーキを両手でしっかりとぎって身を乗り出すようにして左右を確認するという動作を身につけてもらう



駐車車両がいる時は一時停止して、前方や後方からクルマが来ていないことを確認してからその脇を通過する (5・6年生のみ)

ので、今年から再開することにしました。ブレーキのかけ方や安全確認の仕方が不十分であることに児童が気づき、適切なアドバイスを受けられたので、児童にとって役立つ内容だったと思います。自転車教室を児童の安全意識を高めるための重要な行事と位置づけ、来年以降も継続していく予定です。また、今後は校外の道路を自転車



走りながら指導することも検討したいと考えています」と話す。

こうした鈴鹿市内の小中学校での実技教育において、同好会が果たす役割は大きい。同好会は平成16年に発足して以来、メンバーがボランティア指導員として活動を継続。現在は33名が所属し、4グループに分かれて、交通安全教室等の運営をサポートしている。10年前の発足時から同好会で活動している川田さんは「地域や社会と関わりを持ち続けられることが私たちの喜びです。自転車教室では、子どもたちにできるだけ多く練習してもらえようという心がけています。繰り返し練習することで、確実に上手くなっていきます。上手くできたら、ほめてあげる。これでさらに伸びます。これを地道に続けることで私たち指導する側も成長し、今年よりも来年、来年よりも再来年と教育の質も成熟されていくと思います」という。

### 小学生時代と同じ気持ちで乗らない よう意識を変える

小学校を卒業し、中学生になると自転車を通学手段として利用するケースが増える。奈良県にある大和郡山南市立郡山南中学校では全校生徒565名中228名が自転車で通学している。同校の藤村保夫校長は「小学生までは、自転車に乗ることは遊びの延長ととらえがちだったと思います。中学生には車両の運転者としての自覚を促し、遊び気分であらぬように意識を変え

ることが大切です」と話す。

同校は毎年4月または5月に1年生を対象とした交通安全教室を開催している。その中で、自転車通学者に対しては実技による指導を行っている(自転車通学者以外は座学となる)。指導は大和郡山南市の交通指導員の横田栄子さん、山本順子さん、稲光裕子さんが担当している。

大和郡山南市では、小・中学校ともに体育館の中に自転車で行くコースを設営して実技を中心とした指導を行っている。郡山南中学校では、信号交差点や見通しの悪い交差点(一時停止場所)の通過、ピンの間をジグザグに走るスラロームや狭い通路の走行などの課題を盛り込んだコースを生徒が走行。「スラロームや狭い通路の走行では、低速になるとバランスを崩しやすくなり、自分が思っているほど自転車を上手く操作できないことを生徒自身に感じてもらうことがねらいです」と稲光さんは説明する。

横田さんは「基本的な内容は小学生と変えていません。ただし、交通ルールの面では、小学生は自転車歩道を走ることができませんが、中学生になると歩道を走れるのは通行要件を満たした場合に限られます。ですから、自転車は車道の左側端を通行することが原則であることを理解してもらおう

のが重要だと考えています。また、交通事故の被害者ではなく、加害者になってしまう場合があることも伝えていきます」という。

山本さんは様々な中学校の生徒が実技に取り組み姿を見て、近年は両手でブレーキを操作できない中学生が増えていると危惧する。「前ブレーキだけで止まろうとする生徒や飛び降りることで止まる生徒もいます。これは初めて自転車に乗り始める時に正しいブレーキ操作を教えてもらっていないことが原因の1つではないかと考えています。安全に止まれないということは事故防止の上で重要なことで、コースを走り終えた先にあるゴール地点で、両手で前後のブレーキをかけて目標となる線の手前でピタリ止まるという基礎的な課題も加えました」。

### 交通ルールの遵守と マナーアップをめざす

郡山南中学校では交通安全教室の開催だけでなく、生徒指導主事の三谷晴彦教諭が中心となって、自転車通学者のマナーアップに取り組んでいる。「登下校の時間帯は歩行者も多いので、そうした方々の迷惑にならないようにしたいと考えています。登校時と下校時で左側通行を徹底するため、



大和郡山南市立郡山南中学校での交通安全教室。中学1年生の自転車通学者は見通しの悪い交差点の通過や、ピンの間をジグザグに走るスラロームといった実技の課題に取り組む

※2 自転車の歩道通行要件には次の3つの場合がある。「普通自転車歩道通行可の標識等がある場合」「13歳未満の子どもや70歳以上の高齢者等である場合」「車道又は交通の状況に照らして自転車の通行の安全を確保するためやむを得ない場合」。

# 特集：小学生・中学生・高校生への自転車教育



一列に並んだ生徒の真横を生徒インストラクターが乗る自転車が走り抜ける

## 生徒から生徒への交通安全教育を実現

徳島県立三好高等学校はホンダが全国で展開している高校生交通安全教育（6面参照）を取り入れた高校の1つである。昨年

自転車が行き止まりの場所を定めています。また、交差点で信号待ちをする時も歩行者の妨げにならないような待ち方も決めています。私たちが通学路に立ち、繰り返し声をかけました。以前は、生徒のマナーに対する地域の方々からの苦情も多かったのですが、現在ではほとんどなくなりました」と三谷教諭は話す。この他、かばんなどを前のカゴに入れていたりフラついて転倒しやすい生徒には荷物を後ろの荷台にくくりつけるように指導している。このようなきめ細かい指導の積み重ねも、交通事故防止につながるといえるだろう。

「交通安全教育は社会のルールを知ったり、地域の一員としてどのように行動すれば人に迷惑をかけないかを考える良い機会です。だからこそ、日々の学校生活の中で繰り返し指導していく必要があります」と、三谷教諭は交通安全教育の意義を語った。

本田技研工業（株）安全運転普及本部浜松普及ブロックが三好警察署、三好地区交通安全教育推進協議会と連携して、同校で自転車教育を実施。同校の安永校長は「ホンダの交通安全教育は思いやりや譲り合いといった人と人とのコミュニケーションの重要性を生徒に理解させることができる点が良いと感じました」と評価する。同校は2年目を迎えるにあたり、ホンダの高校生交通安全教育を学校と生徒が主体となった自主的活動として継続できるように、生徒インストラクターを養成。「全校生徒の安全意識を向上させることが目標ですが、現実的にはなかなか難しい。そこで、指導的な役割を担う生徒を育て、その生徒から周囲に拡げてもらおうと考えました。意識を高めるには、人に教えるという立場を経験させることが効果的だと思います。そして、生徒インストラクターを募ったところ、12名の生徒が手を上げてくれたのです」と、安永校長はこの取組みの背景を語る。生徒12名は春休みに浜松普及ブロックによる研修を受講し、生徒インストラクターとなった。そして6月25日、生徒インストラクターによる自転車安全運転講習会が行われた。開講にあたって、安永校長は受講する全校生徒約150名に対して「今日、指導を担って当てるのは皆さんの仲間です。皆さんが思いやりを持った行動ができるように、自転車教育のノウハウを勉強し、準備してください。皆さん自身が交通事故の被害者、加害者にならないために、仲間から多くのことを学んでほしい」と挨拶。この日は、地元

## 自分たちの思いを後輩にも受け継いでほしい

体育館に移動し、実施されたのは「思いやり運転」。このプログラムのテーマは、相手の立場に立つて考えることである。生徒インストラクターが10名ずつ生徒を指名し、一列に並んでもらう。その真横を生徒インストラクターが乗る自転車がスピードを出して、前と後ろから走り抜ける。自転車通行可の歩道などで歩行者の横を通る時に、スピードを出していると歩行者はどのように感じるかを実感してもらおうと狙っていた。

次は7名ずつ生徒を指名し、6名の生徒に指定したスペースを思い思いに歩いてもらう。ある生徒は本を読み、ある生徒は傘をさし、ある生徒は台車を押しているなど、歩行者が多い歩道の状況を再現するためだ。残る1名の生徒には自転車に乗って6名の後方から間を縫うように走るよう、生徒インストラクターが指示。それが終わると、生徒インストラクターは体験した生徒にマイクを向けて感想を尋ねていく。歩行者役の子からは「突然、自転車が真横に現れてビックリした」「視線を本に向けていたので、後ろから来る自転車の気配を感じなかった」という声がかかった。

また、自転車利用者役の生徒たちの「歩いている人に自転車が当たりそうで、上手く走れなかった」という感想に対しては「こういう場面で、自転車はどうするべきですか?」と質問。「スピードを出さない」「止まって歩行者をやり過ぎず」「自転車を



歩行者が多い歩道の状況を再現し、歩行者の間を自転車ですり抜けてもらい、生徒インストラクターが歩行者役と自転車利用者役の生徒のそれぞれに聞く



三好警察署の警察官、三好地区交通安全教育推進協議会の交通安全教育指導員が生徒インストラクターをサポート

最後に、浜松普及ブロックのインストラクターが「歩行者のいる場所を走る時はスピードを控えるなど十分に注意してください。『相手を傷つけない』という気持ちがあれば、危ないことや無理なことはやらないはずですよ」と締めくくり、自転車安全運転講習会は終了した。

生徒インストラクターの一人、駒倉健吾さん（2年生）は「インストラクターの募集が始まる前、自転車に乗っていてヒヤリとしたことがあります。事故にはいたりませんでしたが、自分自身も交通安全全について学んでおく必要があると感じ、志願しました」と振り返る。「指導者という立場になるので、インストラクター研修で学んだ安全運転を日々実践して、習慣として身につけられるように努力してきました。今日は天候の急変で予定したことができませんでしたが、みんなが私たちの指示に従って動いてくれたり、話に耳を傾けてくれたので、とてもうれしく思います。私たちの思いを後輩にも受け継いで、この取組みを続けてもらいたい」と、駒倉さんは充実した表情を浮かべた。

Hondaの「高校生交通安全教育」を活用したいという自治体、警察、団体の方は最寄りの地区普及ブロックにご相談ください。

- 栃木普及ブロック（栃木県真岡市）  
TEL：0285-84-7114
- 埼玉普及ブロック（埼玉県狭山市）  
TEL：04-2955-5323
- 浜松普及ブロック（静岡県浜松市）  
TEL：053-439-2316
- 鈴鹿普及ブロック（三重県鈴鹿市）  
TEL：059-370-1553
- 熊本普及ブロック（熊本県大津町）  
TEL：096-293-3206

また「あやとりい 自転車教室（子ども自転車トレーニングマニュアル）」については、鈴鹿普及ブロック（TEL：059-370-1553）へお問い合わせください。

# TOPICS

## 1 生徒が学園祭の来場者に 原付と自転車の安全運転を指導

●山梨県立甲府昭和高等学校

6月29日、山梨県立甲府昭和高等学校（山梨県甲府市）の学園祭（紫映祭）が開催され、その中で同校の生活委員会の生徒28名がホンダライディングトレーナーとホンダ自転車シミュレーターを活用して、来場者に原付や自転車の安全運転指導を行った。ライディングトレーナーおよび自転車シミュレーターは、運転中に起こりうる危険を安全に体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図ることを目的にホンダが開発した教育機器である。ライディングトレーナーは二輪販売会社のホンダドリーム山梨、自転車シミュレーターは本田技研工業（株）安全運転普及本部埼玉普及ブロックが同校に貸し出しをした。指導役の生徒は、来場者が体験を終えると、運転評価結果をもとに事故防止のためのポイントをアドバイスした。



ライディングトレーナーを使って、原付を利用している生徒に危険を安全に体験してもらう



生活委員会では同校の過去5年間の原付と自転車の事故内容を調べ、その傾向などを発表

同校生徒指導主事の村松親志教諭は「本校では、自宅から学校までの一定の距離以上の生徒に原付での通学を許可しています。そのため、交通安全事故防止は重要な課題です。学園祭の機会を利用して、原付を利用しての生徒や来場者にライディングトレーナーを使って、安全運転への理解を深めてもらおうと生活委員会が企画しました。また、運転免許を持たない方も来場するので、自転車シミュレーターも用意しました」と話す。



小・中学生など運転免許を持たない来場者は自転車シミュレーターを体験

## 2 白バイ隊員の講習開始から50周年の節目に 鈴鹿サーキット交通教育センターで開催

●白バイ合同訓練会



鈴鹿サーキット交通教育センター（三重県鈴鹿市）は昭和39（1964）年に開設され、その第1号の講習参加者は白バイ隊員であった。そして、これが現在に続く安全運転講習の始まりであり、同センターの活動の原点にもなっている。



今年、白バイ隊員の講習から始まって50周年の節目となる同センターで、6月29日と30日の両日、「平成26年度白バイ合同訓練会」が開催された。合同訓練会には地元三重県警をはじめ、大阪、愛知など2府11県の白バイ隊員68名が参加。応用バランス、スラロームなどの種目に取り組んだ。訓練の様子は一般にも公開さ

れ、2日間で約150名が観覧。29日の昼休みには、鈴鹿サーキットの国際レーシングコースで白バイによるパレード走行も行われた。閉会式では、鈴鹿サーキット交通教育センターの平井真所長が参加者に50年にわたる白バイと同センターの関わりについて述べ、2日間にわたる合同訓練会は幕を閉じた。

## 3 親子交通安全教室 事故の怖さを伝えるとともに、 交通安全の大切さを学んでもらう

●親子交通安全教室

子どもを交通事故の危険から守るためには、親子が一緒に交通安全を学ぶことが重要である。そこで、子どもが夏休みを迎える時期に合わせて、ホンダおよびホンダ関連企業は親子交通安全教室を全国各地で展開した。これは、全国各地にあるホンダ関連企業の周辺に住む親子を対象としており、子どもには事故の怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と子どもの行動特性を理解していただき、双方に「交通ルールを守る大切さ、命の大切さ」を学ぶ機会を提供することを目的としている。

7月5日に九州武蔵精密（株）（熊本県錦町）、（株）ケーヒン角田開発センター（宮城県角田市）、7月6日



左折巻き込み事故を再現し、クルマの内輪差を子どもたちに理解してもらう



ダミー人形を使った飛び出し事故の再現

各会場では、ホンダ関連企業のホンダパートナーシップインストラクターが飛び出し事故や左折巻き込みの再現、シートベルトの効果を理解してもらうための実験などを行った。

にティ・エステック（株）鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）、7月13日に（株）ケーヒン狭山工場、7月19日に（株）ショーワ御殿場工場（静岡県御殿場市）、7月20日は武蔵精密工業（株）（静岡県浜松市）で開催され、6カ所合計で525名の親子が参加した。

# 募集中!

## 交通安全の動画やポスターをつくってみませんか?

あなたが感じる「こんなときが危ない!」を、30秒の動画やポスターにしてください。審査の上、入選された作品はHondaのホームページに掲載し、素敵な賞品を贈呈させていただきます。

応募締切：2014年9月16日（火）当日消印有効  
 結果発表：2014年10月初旬  
 入賞：動画・ポスター各4作品  
 審査方法：Honda社内において厳正なる選考を行い選出いたします。

※詳しい応募方法や応募規定、賞品については以下のホームページをご覧ください。

ホンダ 安全 コンテスト
検索

[http://www.honda.co.jp/safetyinfo/movie\\_contest/](http://www.honda.co.jp/safetyinfo/movie_contest/)

現場訪問 ●総合警備保障(株)(ALSOK)

# 指導者として必要な心構えと知識、 運転技術を身につけてもらおう

ALSOK(本社・東京都港区)は、ホームセキュリティなどの防犯対策サービスを提供する企業だ。お客様の施設に設置した各種センサーが異常を感知すると、同社のガードマンがクルマ等で現場に急行し対応にあたる。こうした際、安全に現場まで移動するため、同社ではセーフティドライバー(以下、SD)認定員を養成し、このSD認定員が社員への安全運転教育を行っている。SD認定員を養成するための研修は、交通安全センター(レインボー埼玉)で毎年実施されている。その背景を同社セキュリティサービス第二機械警備業務指導課課長の今岡

丈晴さんは次のように話す。「現在、全国に50以上ある支社にSD認定員を2名以上配置しています。SD認定員は車両の運転に従事する新人社員などに必要な教育を担うと同時に、運転の適性を見極め、運転させるかどうかを判断する権限も持っています。この研修では、指導者として必要な心構えと知識、運転技術を身につけてもらうことが目的です」。



5月20日から21日にかけて開催されたSD認定員養成専科研修は同社の監督職社員15名が受講

目標とするパイロンに車体を10~15cmまで近づける



今年1回目のSD認定員養成専科研修は5月20日から21日にかけて開催された。まず座学では、インストラクターが「運転者には個人差だけでなく、個人内差があります。個人内差とは、同じ人であっても置かれた環境や身体的状況で反応に差が出るということです。指導の上で、こうしたことを考慮する必要がある」と話した。

「平成20年度にSD認定員制度を導入し、交通事故件数は当時から半減しました。SD認定員を通じて、社員一人ひとりにきめ細かい指導ができています。果だと思いません」と今岡さんはいう。同社では、SD認定員の再教育のための研修も交通安全センター(レインボー埼玉)で実施している。

要があります。また、皆さんは指導者ですから、安全運転を自ら実践して、それを周囲に伝えてほしいと思います」と、指導者としての留意点を説いた。そして、トレーニングコースに出て、日常点検のポイント、正しい運転姿勢、クルマの死角を確認した後、実技が始まる。

実技では、車両感覚を体得するための訓練とその指導方法に重点が置かれた。車両の前後にあるパイロンに対し、バンパーを10~15cmまで近づけて停止する。これができるようになることが目標だ。



2つのパイロンを結ぶ線上に車両のバンパーを誘導する訓練



パイロンスラロームでは正しい運転姿勢と不適切な運転姿勢での違いを体験



路面に置かれた雑巾に前後左右の各タイヤを載せる



## NEWS REVIEW

### 1 ●(一社)日本自動車工業会 「原付スクーター Safety Riding!」を制作し、公開



(一社)日本自動車工業会(以下、自工会)が二輪車安全運転啓発の一環として、原付乗車時の心構えや日常点検、混合交通での注意点を動画で紹介する映像「原付スクーター Safety Riding!」を制作した(協力:(一社)日本二輪車普及安全協会、監修:(一財)日本交通安全教育普及協会)。7月18日よりYouTubeや自工会、日本二輪車普及安全協会のホームページで公開されている。

原付乗車中の交通事故件数は減少しているものの、事故運転者の約3割が運転免許取得から3年未満であるとの結果(平成24年)が出ている。原付は乗り方を学ぶ機会が新規取得時講習

しかなく、簡単に学習できるコンテンツが少ないのが現状であるため、短時間で体系的に学べるよう1項目3分程度で視聴できる内容になっている。映像は10項目で構成され、原付乗車時の心構えや日常点検だけでなく混合交通での注意点なども紹介している。自工会では、この「原付スクーター Safety Riding!」を通じて、これから原付免許を取得する人や原付利用者に対して正しい乗り方を訴求することで二輪車事故削減につなげたい考えだ。



※「原付スクーター Safety Riding!」は以下のホームページでご覧いただけます。 http://www.jama.or.jp/motorcycle/ http://www.jmps.or.jp/genchalle/training/

### 2 ●第47回二輪車安全運転全国大会 ライダーが安全運転技能と交通マナーの向上をめざす



8月2、3日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)にて「第47回二輪車安全運転全国大会」が開催された(主催:(一財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会)。同大会は、二輪運転者の安全運転技能と交通マナーの向上を図ることを目的として、昭和43

年から毎年開催されている。競技は、法規履行走行と技能走行。女性クラス(50cc)、高校生等クラス(50cc)、一般Aクラス(400cc)、一般Bクラス(1100cc)の4クラスに分かれて、全国47都道府県の代表選手186名が各クラスの個人賞と各クラスの得点を合計した総合得点で団体賞を競う。

大会2日目には、記念式典が国際レーシングコースにて開催され、出場選手全員によるパレードが行われた。大会成績は、団体優勝が埼玉県、2位・兵庫県、3位・三重県。個人賞は、女性クラス・真鍋智香さん(三重県)、高校生等クラス・小菅凌さん(神奈川県)、一般Aクラス・中村永さん(千葉県)、一般Bクラス・本田和幸さん(熊本県)が優勝した。

女性クラスで優勝した真鍋さんは「この大会に携わっていただいたすべての方と同じ時間を過ごせたこと

が幸せです。この経験を胸にこれからはもっと上手にバイクに乗れるよう楽しんで練習していきます」と涙をこらえながらスピーチを行った。また高校生等クラスで優勝した小菅さんは「初出場した昨年は3位だったので、その悔しさを忘れず練習し、優勝できました。監督や指導員の方々、そして今日応援に来てくださったサポーターの皆さんに感謝しています」と笑顔で喜びを語った。





全国に広がる Honda の高校生交通安全教育活動 連載:第7回

# 高校の先生方が生徒への交通安全教育を実施できるようにするために



「8の字走行」では、お互いがスムーズに走行するためにはどのような行動をとるべきか、先生が生徒に問いかける



「反応回避」では、先生が上げた手と逆方向に回避。1回目の携帯電話使用や傘をさしての片手運転では、バランスを崩したり、転倒したりするなど安全に回避できないことを体験してもらう

このコーナーでは、ホンダが全国で取り組んでいる高校生交通安全教育を取り上げている。今回は兵庫県立伊丹西高等学校と、群馬県立下仁田高等学校での事例を紹介する。両校とも昨年、本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及ブロック、埼玉普及ブロックがそれぞれ交通安全教育を実施しており、今年は2年目となる。

## 実技による自転車教育で生徒の行動が変化

伊丹西高校での交通安全教育は7月9日、1年生320名を対象に実施された。同校生徒指導部長の太前淳教諭は「当校では生徒の95%が自転車通学しています。生徒の自転車マナーに関する近隣からの苦情は長年の課題でした。昨年、ホンダの

実技による自転車教育を行ったところ、それ以降、苦情は減り、今ではほとんどありません。これは予想外の結果でした。命を守るために、交通安全は重要なことだという私たちの思いを生徒一人ひとりが感じとり、意識が変わってきた結果だと思います」と話す。同校ではこうした効果が認められたことから、今年も開催を決めた。昨年はホンダのインストラクターが座学、実技とも指導したが、今年は実技を生徒指導部と1年生のクラス担任の先生方が担当した。実技のプログラムは、「反応回避」と「8の字走行体験」である。

「反応回避」では、先生に向かって生徒が自転車を走らせ、先生が上げた手と逆方向に回避する。1回目は片手、2回目は両手で運転。携帯電話の画面を見たり、片手で運転していると、自分が思うように回避できないことを生徒に実感してもら



8の字の交差する箇所ではお互いの動きをよく見て譲り合うが必要になる

「8の字走行体験」は、直径10mの円をつなげた8の字コースを自転車で走行。1台ずつ順々にコースに入り、20台がコース内を走行できたが終了だが、最初のうちは、なかなか上手いれない。先生は生徒を集め、「20台がコース内でスムーズに走行するためには、どうしたらいいか」生徒に問いかける。その中で、他の自転車の動きをよく見て、アイコンタクトや声をかけながら譲り合うことが大切であることに気づかせる。これらを実践することで、コース内を20台で走行することができた。最後に、先生は「自分だけではなく、相手のことを思いやれる心の余裕を常に持つことが大切です。今日、体験して学んだことを実生活の

## 生徒自身で今後の行動目標を導き出す

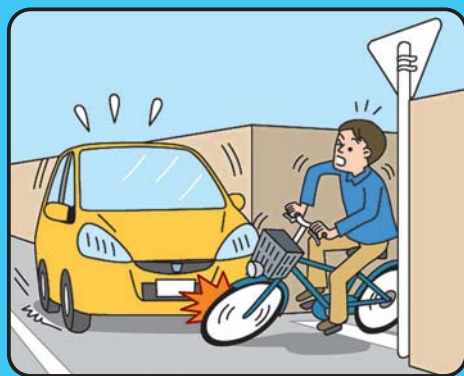
中活かしてほしい」と強調し、実技は終了した。「指導のポイントなど細かいノウハウについては、ホンダから提供があったので、私たちでも実技指導ができました。そして、生徒たちが声を出すなど積極的に取り組む様子も確認できました。こうした良い流れを今後も継続していきたいと考えています」と、大前教諭は今後を見据える。

一方、下仁田高等学校では6月11日に1年生60名を対象に感受性教育が実施された。感受性教育とは、実際に起きた中学生・高校生の自転車事故の事例などをとらえて生徒同士が話し合うことで、安全意識の向上を図るものである。昨年はホンダのインストラクターによって行われたが、今年と同校の田島慶一教諭も指導に加わった。

「単なる講話やビデオの視聴だけでは、生徒の記憶になかなか残りません。この感受性教育は生徒が主体的に考えるプロセスがあるので、生徒に印象づけることができると思います。また、交通安全は自分たちの経験をもとに生徒同士で話しやすいテーマです。こうした授業は、コミュニケーション能力を高めるトレーニングにもなります」と田島教諭はいう。

授業の冒頭では、ホンダのインストラクターが生徒に「なぜ交通安全を勉強するのか?それは、自分の身は自分で守るとともに、人に迷惑をかけた時、ケガを負わせないようにするために」と、交通安全教育の意義を説明。続いて、田島教諭による感受性教育が始まり、ホンダの中学生・高校生向け自転車教育用ワークシートを使って授業が進められる。取り上げたワークシートは「交差点での交通事故」(下記参照)。設

定場面と事故の経緯を説明し、生徒が「この事故がなぜ起きたのか」「事故を起こす直前の自転車利用者の心理状態」「事故が起きると、後々どんな影響が出るか」を考え、ワークシートに記入する。そして班に分かれ話し合い、各班の代表者が発表する。



●田島教諭が使用したワークシートの事故事例=交差点での交通事故「Aさんが自転車で、見通しの悪い一時停止標識のある道路から飛び出し、交差点に進入。クルマと出会い頭に衝突した」



ワークシートに自分の考えを記入した後、班に分かれてグループ討議を行い、代表者がその結果を発表

事故の原因は「自転車利用者が一時停止をしていなかったから」「見通しが悪いのに、左右を確認するなど注意が不足していたから」「自転車利用者の心理状態は「急いでいて、何も考えていなかった」「クルマは来ないだろうと思っていた」「事故の影響は「自転車利用者がケガをして後遺症が残る」「最悪の場合、死んでしまう」という意見が多くを占めた。最後に、班ごとに交通事故防

止に向けた決意をボードに記入し、クラス全員に表明し、終了となる。授業を終えた田島教諭は「小・中学校で交通安全教室を経験しているので、生徒は交通安全の知識を持っている。それを行動につなげるためには、私たちから押しつけるのではなく、生徒自身が考え、話し合ったことに基づいて「今後、どのように行動すべきか」という結論を導き出してもらいたい」と話している。その意味で、感受性教育は効果的な内容だと思えます」と感想を語った。



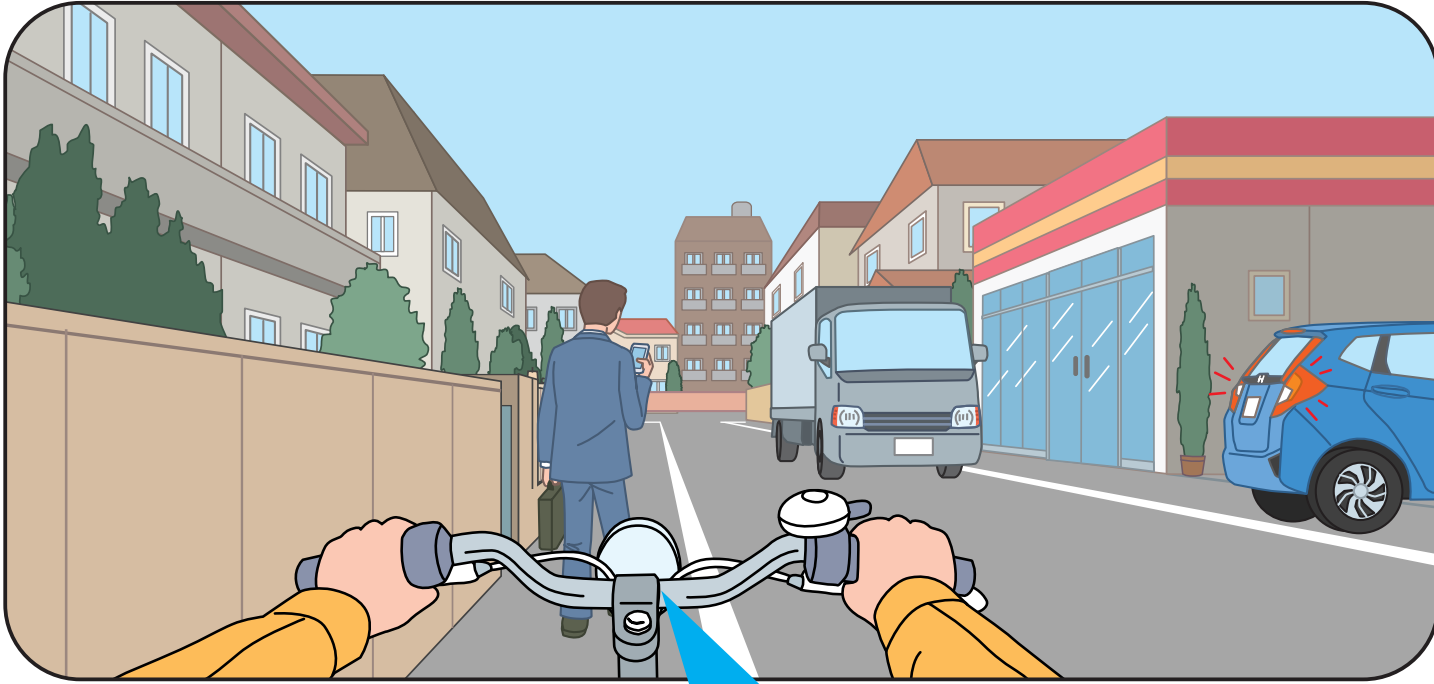
最後は班ごとに交通事故防止に向けた決意をボードにため、クラス全員で共有

※ワークシートと指導案は以下のホームページよりダウンロードが可能(無料)。  
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/junior/

危険予測トレーニング(KYT) — 危険感受性を育てる

第40回 歩行者を追い越そうとしている時 (自転車編)

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は自転車利用者に、狭い車道を走行する時の危険について考えてもらうためのKYTです。



あなたは前方の歩行者を安全に追い越すため、路側帯から車道に出ようとしています。右側の駐車場にいるクルマが後退を始めていますが、対向車のトラックは近づいて来ます。

安全に通過するには、どのようなことを予測する必要がありますか？

活用方法

- ① 少人数のグループをつくります。
- ② 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
- ③ その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

ホンダ SJ

検索

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業(株) 安全運転普及本部  
TEL: 03 (5412) 1736  
E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

©本田技研工業(株)

指導者ファイル 21

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。



東京都八王子市の交通安全教育指導者の皆さん  
村山祐美さん(写真左)、佐々木由紀江さん(写真右)

小学生への自転車教育を積極的に推進

八王子市は約56万人が暮らす東京都西部の中核都市である。幼児、小・中学生、高齢者を中心に市民への交通安全教育を担うのが、交通安全教育指導員の村山祐美さん、佐々木由紀江さんを含む5名だ。

同市では、市民への自転車利用時のルール・マナーの啓発、特に小学生の自転車乗用時のヘルメット着用を力を入れている。さらに、小学生への自転車安全運転免許証発行事業を推進している。これは、小学3年生を対象に自転車教室を行い、児童に免許証を交付するというもの。平成16年度には2校で試験的にスタートし、平成25年度には市内の小学校70校中57校で実施するまでにいった。 「自転車教室では2時限を使って交通安全講話、学科テスト、実技テストを行っています。これを私たちだけでなく、警察や交通安全協会と連携して進めていることが大きな特色です。学校側の理解もあって、ここまで普及させることができました」と村山さんは話す。

さらに、同市は5年前から小学5年生への自転車教育も授業に組み込んでもらうよう小学校にはたらきかけている。自転車のルールの再確認と、車両の運転者としての自覚を促すことを目的とした座学で、70校

中55校(平成25年度)に拡がっている。高齢者においては近年、老人会といった地域の組織が減少していることを考慮し、高齢者が集まるサロンやグラウンドゴルフなどの会場に交通安全教育指導員の皆さんが訪問し、そこで啓発活動を行っている。「最近では『交通安全』というテーマだけでは、高齢者の皆さんに集まっていただけなくなってきました。そこで、私たちのほうから集まる場所に向かっています。会場に

自転車やクルマを運転していらっしゃる方が多いので、こうした機会を活用しています」と村山さんはいふ。「まず、お伝えしているのは、その日の自分の体調をきちんと把握するという。少しでも『おかしい』と感じたら、無理をせず自転車やクルマの運転は控えるのが安全です。そして教材を使いながら、自分はちゃんと観ているつもりでも、実は観ていないことなどを理解していただいています」。

★高齢者を対象にした交通安全教室

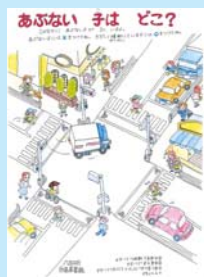


地域のサロンなどを訪問し、交通安全教室を実施。おばあさんの腹話術人形を使って事故防止のポイントを説明

1つのことにずっと注目していると、その他のことに気づかないことを知ってもらうための教材。上下左右の矢印だけに注目していると、中央の黒い「H」という文字に気づかない



様々な図形や文字が並んだものを一定の時間だけ見せた後、何がいくつあったかを高齢者に尋ねる。自分は観ているつもりでも、実は観ていないことに気づいてもらう



★子どもを対象にした交通安全教室で使用する教材

イラストの中で、正しく横断している人に○、そうでない人に×をつけてもらう



交通公園では「夏休み交通安全フェア」を開催。子どもを中心に自転車の安全運転について理解を深めてもらう

★2カ所に設けられた交通公園

八王子市には交通公園が2カ所あり、街中の道路や信号機などが再現され、自転車に乗りながら、交通ルールを学ぶことができる。また、自転車安全運転免許証のための教室も行われている

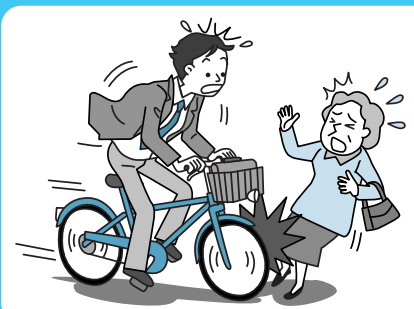
指導者の皆さんの活動を動画でご紹介  
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/movie/>

SJクイズ ?

Q1 平成25年の自転車乗用中の交通事故死傷者数を年齢層別にみると、最も多いのは次のうちの年齢層でしょう?  
① 15歳以下 ② 16～24歳  
③ 40～49歳 ④ 65歳以上

Q2 中学生年代にあたる13～15歳の交通事故死傷者数は1万5579人(平成25年)ですが、このうち自転車乗用中に死傷した割合は何%でしょう?  
① 約33% ② 約44%  
③ 約55% ④ 約66%

Q3 平成25年の自転車関連事故件数(自転車)が第1当事者又は第2当事者となった交通事故件数は10年前と比べ66%減少しましたが、対歩行者の事故件数は10年前と比べ、どのような状況でしょう?  
① 減少した ② ほぼ変わっていない  
③ 増加した



※「解答」は8面下。「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

©本田技研工業(株)

安全な道路環境をめざして 3

# SAFETY FOCUS

## 右折時に対向車線の直進車両を確認しづらい幹線道路の交差点

●この地点で発生した事故件数

事故類型		件数
車両相互	追突	13
	右直	3
	出会い頭	1

※平成25年中、福岡県警察本部提供

●「SAFETY MAP」みんなの意見

危ないと感じる理由	そう思う人
スピードが出ているクルマが多い	2人
見通しが悪い	1人
交差点の形状がやや変則的	1人

※平成26年7月31日時点



「SAFETY MAP」の表示

「SAFETY FOCUS」は、ホンダが公開している「SAFETY MAP」に示される交通上の危険が潜むスポットに足を運び、現場の交通環境と事故防止について考察する連載記事です。

「SAFETY MAP」には「みんなの意見」として一般投稿された危険スポット情報が地図上に表示されている。今回「FOCUSエリア」(下図参照)に取り上げるのは、福岡県内で4人の方が「みんなの意見」を投稿している「バイパス朽網」交差点だ。ここには、スピードが出ているクルマが多い(2人)、見通しが悪い(1人)などの投稿が寄せられている。また、急ブレーキ多発地点の表示も出ているこの場所では、平成25年中に交通事故が17件発生しており、車両相互の追突や右直などの事故が起きている。

### 現場をたずねる

「バイパス朽網」交差点は非常に複雑な形状になっている。国道10号の小倉側は直進および右折専用レーンが2車線ずつ整備されている。現場をたずねた平日朝7時は通勤ラッシュにあたり、国道10号小倉方面からの車両で直進・右折レーンともに渋滞が発生。特に車線

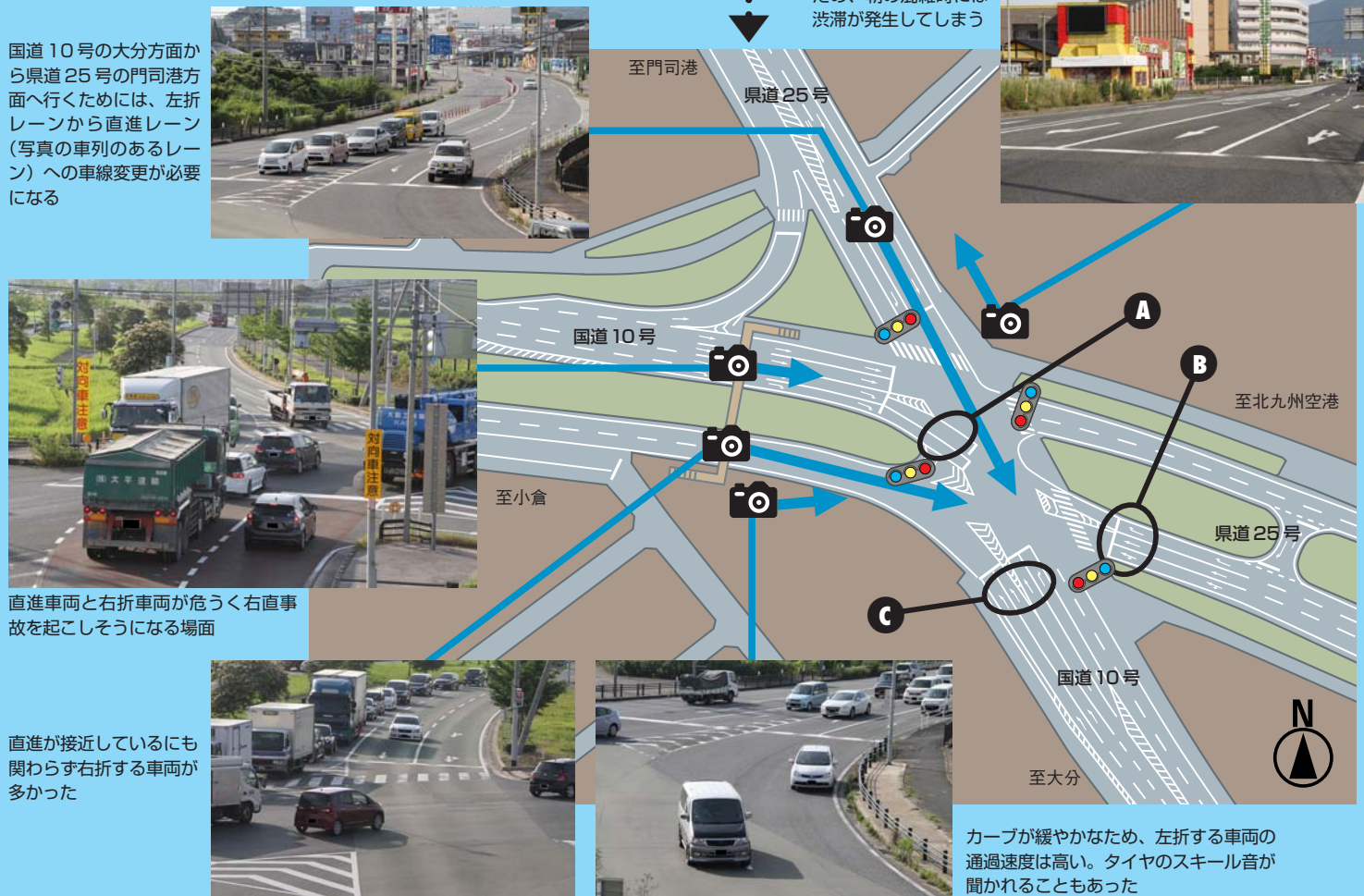
Aのクルマは青信号と同時に停止線まで進行するが、対向車線である国道25号の右折レーンに大型車がひんばんに停車するためBの直進車両を目視で確認できない。そのため多くのクルマは停止線を大きく超えて右折待ちしていた。

北九州空港方面からの直進車線Bのクルマは通行台数がまちまちで、Aのクルマは通行が途切れたタイミングで右折を開始していた。Bのクルマの中には、黄色信号の時に70km/h以上の速度で交差点に進入するケースも見られた。

また、大分方面からの車線Cは左折するクルマが大半を占めているが、直進レーンが分かりづらく交差点の手前で車線変更を行うクルマが散見された。

### FOCUS エリア

福岡県北九州市小倉南区「バイパス朽網」交差点



国道10号の大分方面から国道25号の門司港方面へ行くためには、左折レーンから直進レーン(写真の車列のあるレーン)への車線変更が必要になる



直進車両と右折車両が危うく右直事故を起こしそうになる場面



直進が接近しているにも関わらず右折する車両が多かった

左折レーンは直進と併用する1車線しかないため、朝の混雑時には渋滞が発生してしまう



カーブが緩やかなため、左折する車両の通過速度は高い。タイヤのスキール音が聞かれることもあった

### 自分本位の見切り発車で右折を開始しない

現場で危険を感じたのは国道10号を小倉方面から大分方面へ右折するケースだ。Aの右折車両がBの直進車両と危うく接触しそうな事象は、観察中に4回程発生した。4回のうち2回はAの車両が対向車の接近中に強引な右折を開始。残りの2回はBの車両が黄色信号になってから交差点に進入したケースだった。

通勤時間帯とあって運転者は気が急いでいるだろうが、自分本位の見切り発車での右折はしてはならない。しかし、今回の現場ではBの右折レーンにいる大型車が交差点中央に出てくると見通しが極端に悪くなり、Aで右折待ちをしている運転者は停止線の直前でもBの直進車両の接近を確認しづらくなる。さらにBの直進車両は信号が黄色から赤への変わり目で速度を上げて交差点に進入して行くため、右折待ちをする運転者の視認性確保が必要だと思われた。

### 右折レーンの位置変更や信号制御の見直しを検討中

事故を防止するため、福岡県警察は道路管理者と連携し、今年中に交差点の改良を実施する予定である。主な対策としては1.「Aの右折レーンを対向車線側に寄せて視認性を改善」2.「Cを直進優先となるよう車線を整理」3.「信号制御を見直し、直進と右折を分けて進行させる」4.「大分方面から小倉方面に向かう交差点の角をせり出し車両速度を抑制」5.「門司港方面から北九州空港方面に向かう左折レーンを新設」である。

その他、路面のカラー舗装や減速マークを追加設置する計画もある。これはAで停車中の車両に後方から追突する事故も多発しているため、原因として先行車の減速タイミングに後続車が追い付かなかったことが考えられる。

このような道路環境の改善によって、「バイパス朽網」交差点の事故件数が減少することが期待される。

中央分離帯の面積を減らし、右折レーンを対向車線側にシフトする予定



Cの左折レーンの手前に急カーブ表示がある



交差点の至る所に注意喚起の表示が設置されている



「SAFETY MAP」のご活用・ご参加をお願いします!

ホンダ セーフティマップ

<http://www.honda.co.jp/safetymap/>

「SAFETY MAP」は「みんなで作る安全マップ」です。Hondaのインターナビが集めた日本中を走るクルマの急ブレーキ情報と、交通事故情報、そして皆さんの声で地図はつくられます。お手持ちのPC・スマートフォンからアクセスできますので、あなたの周囲に危ないと感じることのある場所があったら、情報を投稿してください。